

8月 August

今回は、夏のおわりから秋にかけて楽しめる寄せ植えです。ハケイトウは、漢字で書くと「葉鶏頭」。あの、鶏のトサカのようなケイトウの葉っぱ版です。中国では雁が渡ってくる秋に見頃を迎えることから「雁来紅」と呼ばれ、日本でも平安時代から秋の季語として親しまれている植物です。ハケイトウは葉の色を楽しむカラーリーフの代表選手ですが、ブーゲンビリアも花に見えるのは萼（がく）で葉の一部。トウガラシのカラフルな実とあわせて、花以外の色を楽しむ植物でまとめてみました。

■ハケイトウ



ヒゴ科の一年草。とても丈夫で、大きなものは2mぐらいまで成長するそうです。プランターで栽培する場合は草丈30センチぐらいの矮性種を選ぶようにしましょう。秋に気温が下がると、赤や黄色の葉色がさらに鮮やかになって見頃を迎えます。



■ブーゲンビリア



オシロイバナ科の熱帯植物。花に見える部分は実は葉の一部で、本当の花はその奥に隠れています。茎はツル状で、一般に店頭に並ぶ時はあんどん仕立てになっていることが多いです。いかにも南国というイメージがある植物ですが、日本の夏は暑すぎるので花が咲きにくく、秋が一番見頃なのだそうです。



■五色トウガラシ



ナス科のトウガラシですが、観賞用に作られたものです。背丈30~40センチ、丸っこくてつやつやとした実の色が緑→橙→赤→紫と変化する様子が楽しめます。寒さに弱いので越冬は難しいようですが、高温にはとても強いです。11月頃まで実を鑑賞できます。



寄せ植え例



管理

いずれも熱帯の生まれの植物なので暑さには比較的強く、ほとんど手間がかかりません。ハケイトウとトウガラシは1年草ですが、ブーゲンビリアは冬に室内に移動させれば越冬もできます。

ポイント

高さや色づきの異なるハケイトウを4株、鉢の奥側に寄せて植えます。その手前左右に五色トウガラシを一株ずつ。間にブーゲンビリアを一株ずつ植えました。ブーゲンビリアも色とりどりのものを合わせると華やかになります。